

県央水戸アグリ情報

令和8年度第1報
(令和8年8月発行)

発行：茨城県県央農林事務所経営・普及部門
(水戸地域農業改良普及センター)
Tel 029-227-1521
Fax 029-225-0955

いばらきメロン品評会でシルバーマイスター賞を受賞！

県オリジナル品種「イバラキング」と県内で生産された「赤肉メロン」の食味や外観を審査する品評会「KING & QUEEN コンテスト 2026」が開催されました。令和8年5月22日に最終審査会が行われ、JA 水戸茨城町メロン部会の豊田大介氏が「イバラキング」の部で第2位となるシルバーマイスター賞を受賞しました。

豊田氏は「コンテストに向け、メロンの生育と食べ頃を見極める難しさがあった。昨年はゴールドマイスターだったため悔しい思いもあるが、受賞出来てうれしい」と喜びを語っていました。また、本年5月8日には、昨年のコンテストの1位受賞者として「いばらきメロンマイスター」にも認定され、今後も高品質なメロンの生産が期待されます。受賞したメロンは、5月末～6月上旬にかけて東京都内の百貨店等で販売されました。

コンテストの詳細は「茨城をたべよう いばらき食と農のポータルサイト」HPにも掲載されています。

HP 記事はこちらから▶▶



受賞した豊田氏 (写真中央)



豊田氏のイバラキング (写真手前)

第14回茨城いちごグランプリで「大場いちご園」が大賞、「水戸のいちご屋」が金賞を受賞！

令和8年1月29日に第14回茨城いちごグランプリの表彰式が茨城県庁11階アトリウムで開催され、「いばらキッス」の部で大場いちご園 大場裕介氏(水戸市)が最高賞の大賞を、一般の部で水戸のいちご屋 諏訪佳奈子氏(水戸市)が「とちおとめ」で金賞を受賞しました。当グランプリは毎年県内から選りすぐりのいちごが出品され、立毛審査及び品質・食味審査が行われます。

大場氏は「一粒一粒に思いを込めて作っているのだから、大切に育てたいちごが評価されてうれしいです」と喜びを語っていました。また、諏訪氏からは「誰かの笑顔のもとになればいい」と思い育てたいちごです。これからも真っ直ぐいちごと向き合っていきます」と意気込みのコメントがありました。

大場いちご園では「いばらキッス」と「淡雪」の2品種を、水戸のいちご屋では「とちおとめ」を栽培しています。今年のいちごは12月頃から直売所等で販売予定です。



諏訪氏 (写真左) と大場氏 (写真右)



大場いちご園のいばらキッス

茨城県産米「ふくまる」、初の「特A」獲得！

日本穀物検定協会の2025年産「米の食味ランキング」において、茨城県産「ふくまる」が最高ランク「特A」を初めて獲得し、注目されています。「ふくまる」は大粒で玄米の外観品質に優れ、おいしさも兼ね備えた本県育成の早生品種です。近年、「コシヒカリ」が夏の異常高温の影響により玄米の品質が低下する中、高温耐性をもつ「ふくまる」は高い一等米比率を維持しています。

ひたちなか市では「ひたちなか市特裁・特選ふくまる栽培研究会」を組織し、「ふくまる」のブランド化に取り組んでいます。当部門では、中干し前、穂肥前、収穫前の時期に会員とともに現地巡回を実施し、品質と収量の向上を支援しています。3月に実施した令和8年度作付検討会において、茨城県産「ふくまる」が「特A」を取得したことが話題に上がり、会員から「ふくまるが特Aとなって嬉しい」「今後も高品質なふくまるを作っていきたい!」との声があり、更なる品質向上に向け意欲を高めていました。



収穫の様子

「農業学園・あぐり女子会」に参加しませんか？

当部門では、就農後間もない農業者（概ね就農3年目まで）及び若手女性農業者を対象に、農業経営における知識や技術を学ぶための講座として「水戸地域農業学園・あぐり女子会」を開催しています。講座では、意見交換など交流する場を設け、受講生同士の仲間づくりも支援しています。

ご興味のある方はお気軽に当部門までご連絡ください。

今後の講座予定

9月15日	病害虫・農業講座
12月上旬	土づくり講座
1月14日	水戸地域農業青年プロジェクト発表会
2月中旬	閉講式・先輩農業者ほ場見学



R8 農業学園・あぐり女子会開講式

サツマイモ基腐病に関する遵守事項の見直しについて

茨城県総合防除計画では、まん延すると影響が大きいサツマイモ基腐病について、全ての農業者（家庭菜園で栽培する方を含む）の皆様に取り組んでいただきたいこととして、「遵守事項」を定めています。令和7年11月にサツマイモの大産地で当病害が発生したことを踏まえ、本病の予防対策の徹底と発生時の防疫措置を強化するため、遵守事項の見直しを行いました。本病のまん延防止のため、皆様のご理解とご協力をお願いします。

※総合防除計画及び遵守事項は、改正植物防疫法（令和5年4月1日施行）に基づくものです。

遵守事項の内容（下線部が変更箇所）

- ①県が実施するまん延防止のための調査並びに抜き取り及び消毒を含む防疫措置に協力する。
- ②来歴が明らかな健全な種いもや苗を使用する。
- ③発病株の早期発見のため、定期的にほ場の見回りを行う。
- ④ほ場の排水対策を実施する。
- ⑤農業用資材や農機具を別ほ場で使用する場合は、十分に洗浄する。
- ⑥本病の発生（疑義症状を含む）を確認した場合には、関係機関へ連絡し、関係機関の指導の下、発病株及び発病のおそれがある株を速やかに抜き取り、ほ場（苗床を含む）外に持ち出し、適切に処分する。
- ⑦⑥の後は速やかに、感染拡大を防止するため、発生ほ場及び隣接するサツマイモほ場に薬剤散布を実施する。
- ⑧本病発生ほ場及び発生のおそれのあるほ場では、収穫後、作物残渣を速やかにほ場外に持ち出し適切に処分するとともに、土壌消毒を実施する。
- ⑨収穫後のサツマイモは、収穫したほ場を特定できるよう、ほ場毎に区分した上で管理する。
- ⑩本病発生ほ場では、2年間、サツマイモを作付けしない。
- ⑪本病発生ほ場でサツマイモの作付けを再開する場合は、関係機関の指導の下で栽培管理を行う。
- ⑫本病発生ほ場から種いもを採取しない。

県の「指導及び助言」を経てもなお、遵守事項に則した防除が行われず、サツマイモ産地に重大な損害を与えるおそれがある場合、県は「勧告」、「命令」の措置を順次行います。

さらに命令に従わない場合は、行政代執行法に基づき、県が代執行する考えです。

※畑で疑わしい症状を見つけた時は、当部門へ速やかに連絡をお願いします。

いちごの適期定植のすすめ



いちごの促成栽培において、定植のタイミングは最終的な収穫量や品質を左右する重要なポイントです。定植時期の目安は、夜冷育苗では9月上旬、普通育苗では9月中旬から下旬ですが、近年は、気候変動の影響で、育苗期が高温となるため、頂花房の花芽分化が遅れ、定植適期が1週間程度遅くなる傾向が見られます。定植適期の判断材料としては、花芽分化ステージの確認（花芽検鏡）、クラウン径、本葉や根等の苗の充実度、育苗期間の積算温度や日照条件（夜冷条件も含む）などがあります。今年も、育苗期の猛暑が予想されますので、安定した収量を確保するために、苗の定植適期を判断して、定植作業をおこなってください。

令和8年度 茨城県農業経営士・青年農業士 新規認定者のご紹介

今年度、水戸地域から農業経営士3名、青年農業士3名が認定されました。新たに認定された方をご紹介します。

農業経営士 皆藤 純一 氏（小美玉市）

消費者の皆さんに喜んでいただけるよう高品質な梨の生産に取り組んでいます。県育成品種の導入により高付加価値化を目指すとともに、作業効率に配慮しながら新改植を行うことで規模拡大を進めています。



農業経営士 野村 邦之 氏（小美玉市）

夫婦で和牛一貫経営（牧場で生まれた子牛がお肉になるまで）をしており、健康な子牛を育てることに注力しています。また、多くの人に常陸牛の美味しさを味わってほしいと思い、常陸牛の生産者仲間と日々PR活動をしています。



農業経営士 栗原 喜視 氏（茨城町）

茨城町で主食用米、飼料用米を生産しています。地域の農業者が減少する中、耕作放棄地等の解消に取り組み、地域農業の維持に貢献しています。後継者の就農を契機にさらなる規模拡大を進めています。



青年農業士 佐藤 力也 氏（水戸市）

水戸市で5年前に新規参入し、かんしょの生産と干し芋の加工をしています。馬糞堆肥の活用や芋苗の販売など、独自の経営が評価され、日本さつまいもサミット2025-26において優れた経営者に贈られるファーマーズ・オブ・ザ・イヤーを受賞しました。



青年農業士 高野 健太 氏（那珂市）

茨城北酪農業協同組合に所属し、基本に忠実に飼養管理を行い、体細胞の少ない生乳生産を心掛けています。また、県立農大などの研修生を受け入れるなど、担い手の育成にも寄与しています。



青年農業士 張 貴雲 氏（小美玉市）

小美玉市で、耕作放棄地を農地に再生し、自家製堆肥を活用したそば栽培に取り組んでいます。また、二丁ではフランチャイズ農場を整備し、担い手の育成にも意欲的に取り組んでいます。



水稻生育情報を公開しています

水戸地域の水稲生育状況や技術情報をホームページにて公開しています。HPはこちらから▶▶



労災保険に加入しましょう！

農作業安全に努めるとともに、万が一の事故発生に備え、労災保険に加入しましょう！ HPはこちらから▶▶

